

# 流行1カ月「注意報」レベル迫る

## インフル 全国拡大顕著

	インフルエンザの患者報告数					■=全国的な流行期に入った週
	12月 第4週	第5週	1月 第1週	第2週	第3週	
2022~23年	6103	9768	2万3139	3万6388	4万7366	?
21~22年	49	45	50	54	89	0.3万
20~21年	70	69	73	65	64	1.4万
19~20年	10万5221	11万5002	6万4553	9万8111	8万3037	729万
18~19年	37万9589	5万4617	7万8116	19万527	26万7596	1210万

(単位人、第〇週はおおよその時期。厚生労働省などの資料を基に作成)

インフルエンザの感染拡大が顕著になっています。全国的な流行入りから1カ月が過ぎましたが、患者数は増え続け、注意報レベルに迫りました。流行は3年ぶりで免疫が落ちている人も多いとされ、専門家はワクチン接種や感染対策の徹底を訴えています。

インフルエンザはウイルスを病原体とする急性呼吸器感染症。飛沫（ひまつ）などで感染し、38度以上の発熱や頭痛といった症状が出ます。新型コロナウイルス流行前は毎年500万人程度の患者が出ていました。

厚生労働省は昨年12月28

日、1定期医療機関当たりの患者報告数が同25日までの1週間に全国平均で1人を超えたため、流行期に入ったと発表しました。患者数は増え続け、今月22日までの1週間では全国で4万7366人となり、1機関当たり9・59人になりました。4週間以内に大流行が起きる可能性を示す注意報の水準（同10人）に迫ります。

都道府県別では、最多は沖縄（38・77人）で警報レベルの水準（30人）を超えるました。大阪（20・46人）や京都（15・31人）、兵庫（12・13人）など関西や、福岡（20・59人）や高崎（17・59人）など九州で多く、北陸も石川（13・69人）や福井（12・14人）で注意報レベルを超えま

した。国立感染症研究所による

1定期医療機関当たりの患者報告数が同25日までの1週間に医療機関を受診した患者数は推計約28万7000人（前週比3万人増）でした。今シーズンの受診者数は約89万4000人と推計されます。

感染症に詳しい慶應大学の葛谷憲夫客員教授は「過去の流行や海外の状況から判断すると、今が流行の初期段階かもしれないと分析。流行は2月中旬以降にピークを迎える可能性があるとした上で、「今シーズンの患者数は例年の2倍くらいになる恐れもある。今からでも遅くないのでワクチン接種を受けたとともに、手洗いやマスク着用などの対策を続けてほしい」と話しています。